

十河信二先生 顕彰シンポジウム



▲基調講演を行った原名誉教授

西条市にゆかりがあり「新幹線生みの親」として知られる十河信二氏に関するシンポジウムが9月24日、西条国際ホテルで開催され、ご遺族から市に寄贈された日本国有鉄道関係史料の意義や、十河氏の功績を広く発信しました。

シンポジウムでは、西条市に寄贈された史料の調査を行っている東京大学名誉教授原朗氏による基調講演や、帝京大学教授加藤新一氏、愛媛大学准教授山口由等氏を交えた鼎談が行われました。

基調講演では原名誉教授から、十河氏の生涯に触れるとともに、史料から読み取れる新幹線導入へと向かった国鉄内の流れなどが紹介されました。

た。国鉄総裁就任中の十河氏が、多発する鉄道事故や労働争議、新技術の開発など各課題に直面したことを挙げ「政治家との交渉など一つ一つの課題に向き合ったからこそ新幹線導入が実現した」と、十河氏のリーダーシップを高く評価されました。

鼎談で加藤教授は「複雑で巨大な国鉄組織のトップが、どのような情報をもとに経営判断してきたかがわかる」と史料の学術的な価値を強調されました。山口准教授は「史料は、地域遺産としてまちづくりにも有用である」と地域振興の観点からその価値を評価されました。

原名誉教授は「新幹線から世界の高速度鉄道につながった原点が西条市に残った」として、長期的な視点に立った史料の保存や活用の必要性を強調し総括され、貴重な史料が西条市に残された意義と将来の高速度鉄道導入についても考える機会となりました。



▲史料から読み取れるものは大きい

十河信二氏 (1884~1981)

明治17年、現在の愛媛県新居浜市中萩町に生まれる。

西条中学校、東京帝国大学政治学科を卒業後、鉄道院に入り、鉄道省経理局長、南満州鉄道理事、興中公司社長等を歴任。

昭和20年7月に第2代旧西条市長に就任し、戦後の混乱期に市勢の進展に尽力。昭和30年には第4代日本国有鉄道総裁に就任し、東海道新幹線の建設実現に多大の功績を残される。



実施しました

水質保全区域等河川一斉清掃

昨年まで実施していた「水質保全区域河川一斉清掃」は実施方法を改め、今年も継続して実施しています。

9月末現在で河川周辺の除草やごみ拾いに周辺住民の皆さん約920人が参加し、回収されたごみや水草は約26トンにも及びます。

「水の都西条」にふさわしい河川環境を創出するため、今後多くの皆さんの参加をお願いします。

▶界谷川
地蔵原付近



▶サラサラ川
中須橋付近



▶新町川
ほたるの里公園付近



▶新町川
神拝緑地公園付近



フエウオッチング

西条では今年のお祭りは終わりましたね。

「祭り」の話になると、とたんに熱く語りだす西条の方々に、最初は驚いたとともにすてきなと感じたものです。今回は、そんな祭りの話題をお伝えしたいと思います。

日本のようにはっきりとした四季はないものの、この時期はベトナムも「秋」だそうで、9月12日は旧暦8月15日の中秋節でした。中秋の名月を楽しみながら、先祖を敬い、子孫繁栄を祝う行事で、ベトナムでは特に子どものお祭りとして行われます。中秋節の前後3日間程は、街中を子どもたちが太鼓に合わせて獅子舞を披露しながら回ります。静かなフエの夜も、この時期は夜遅くまで盛り上がり、色鮮やかな獅子舞が秋の夜長を楽しませてくれます。西条市とフエ市との事業を機に、いつか獅子舞交流ができればすてきですね！

